

# 技術、開発力アピール



自動平盤打抜機「NFS-1050T」

## 日本紙工機械G 年内最後の見学会

### 主力2機、抜きと貼り実演

(株)日本紙工機械グループ(小崎享社長)は12月4、5日の2日間、本社工場(茨城県利根町)で年内最後の工場見学会を開いた。主力製品である板紙用自動平盤打抜機「ニューオートン」(NFS-1050T)と、段ボール用ワンタッチケースグループ「OCGER-1700-MAS」を展示した。

高品位・高圧力の自動広く対応する。同タイプ平盤打抜機「NFS-1」は、ロット数の多い大手050Tは2ステーションを中心に納入しており、ヨンタイプ、打抜き・窓作業効率の向上に大きく抜きからストリップピン貢献している。プレス部はダブルリ

ンク機構」でスムーズなシート送りとスピードに左右されない強い野線加工を実現。ストリップピンでは「トリプルアクシヨンストリップ機構」によって高速対応、確実なカス除去を行う。安定した給紙、ブランキング装置にも注目が集まった。今回は、オーバーホールされた打抜機を展示。電気系統をすべて新しく取り換え、部品レベルから組み直した。外観同様新たに生まれ変わった生産設備は、実演で抜き精度などを証明した。

今年も販売好調だったハイグレード自動製函機も併せて展示した。マルチアライニングセクション(MAS)装置を搭載した「E-1700-MAS」は、自動補正機能によって正確で安定した送りを実現。また、独自の新フォルディング機構を搭載している。同社では、2011年も頻繁に開催してきた工場見学会について「弊社

の技術・開発力をアピールできる絶好の場。今後は、段ボール用自動平盤打抜機や欧州仕様のグリアなど、数多くの開発テーマを掲げている。来年も見学会を通じて積極的に発表し、来場の皆様には間近で確認していただきたい」とした。